

同志社大学
キャラクター

Ben-k

同志社大学の創立者・新島襄の愛犬「弁慶」にちなんで誕生したキャラクターです。

Ben-kと一緒に記念撮影ができます。



政策学部

政策学部事務室

〒602-0047 京都市上京区新町通今出川上ル

TEL **075-251-3107** FAX **075-251-3108**

E-mail **ji-seijm@mail.doshisha.ac.jp**



政策学部に関する最新情報は下記へアクセス！

<https://policy.doshisha.ac.jp/>

AR

学部長や先輩たちによるライブ感あふれるメッセージ。コンテンツは不定期に更新予定。ぜひチェックしてください。

3P マーカー部分



9.10P マーカー部分



スマートフォンやタブレットで右下のQRコードをスキャンし、マーカー部分にかざして再生タップでARがスタート。

※カメラの使用を許可してください。

◎機種によっては正しく視聴できない場合があります。 ◎視聴は無料ですが、データのダウンロードには通信料がかかります。

Entrance examination Information

入試に関するお問い合わせ先

入学センター入学課

TEL **075-251-3210**

FAX **075-251-3082**

E-mail **ji-nyugk@mail.doshisha.ac.jp**

入試に関する最新情報は

01 <https://www.doshisha.ac.jp/>

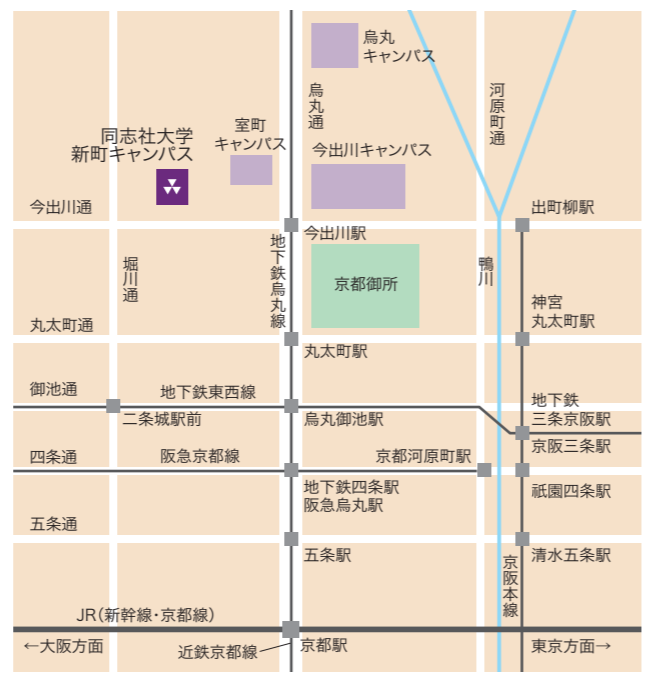
02 [admissions_undergrad/](#)

03 [entrance_exam.html](#)



アクセス

JR京都駅から地下鉄烏丸線で約10分
京阪「出町柳」駅から徒歩約15分（バスで約5分）



FACULTY OF POLICY STUDIES

同志社大学
政策学部案内

学部長対談
セイサクガクブって何だ？
在学生×学部長

私にとっての
政策学部
お雑煮のような
政策学部

ゼミ紹介
ARによる先輩メッセージ

教員紹介
学べる
専門分野



私にとっての 政策学部

調理人である在学生12名に
インタビューしました!



お雑煮のような 政策学部

政策学部では、自分だけのお雑煮をつくることのできるのです。

具材は、行政・政治、法律、経済学、組織論などの学び。

具体的に言うと SDGs、ジェンダー、キャリア、国際貢献、金融、地域創生など無限です。

味付けは、授業はもちろん、ゼミ、フィールドワークもあるし、ディベート大会や政策立案大会も。

あなただけのお雑煮をつくってみませんか? 調理人は「あなた」です!

どのようなお雑煮ができたのか、
QR コードからチェックしてみてください!

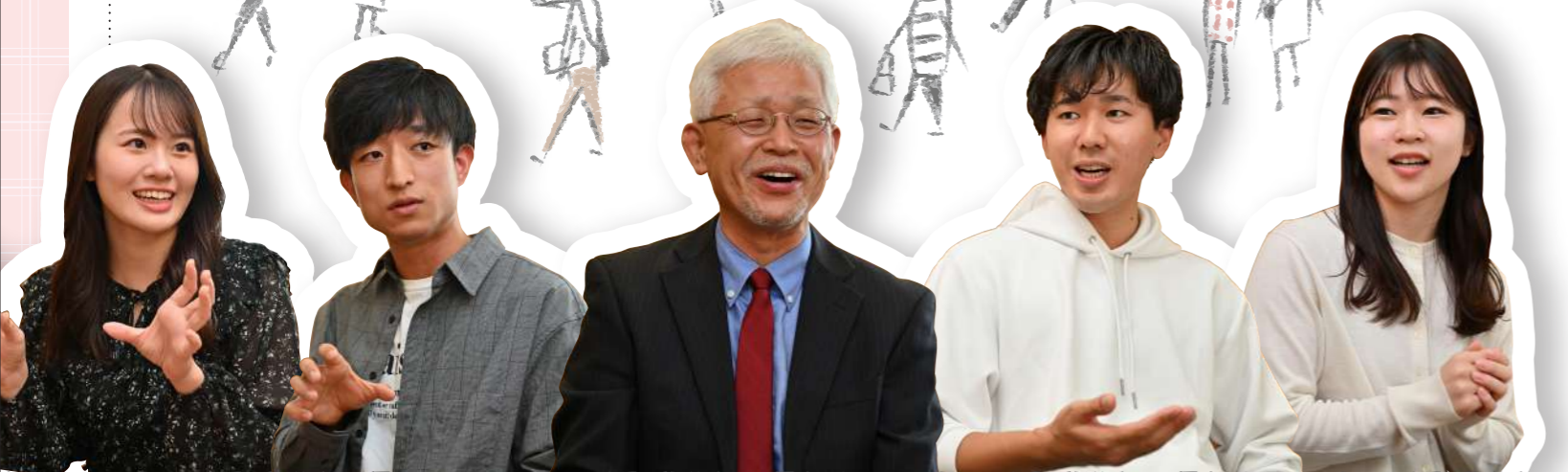
このページは「政策トピックス」という授業で、受験生の皆さんに「政策学部の魅力を知ってほしい」という想いで作成したものです。紙面では最小限の情報しか掲載されていませんので、QR コードにアクセスし、在学生のリアルな声に触れてください。そして、入学後は私たちのように未来の後輩たちのために「政策学部のリアル」を伝えてください。お待ちしております。

セイサクガクブって何だ？

学部の魅力って？

何を学べるの？

キャンパスライフは？



政策学部 3年生

ARIMOTO Hina
有本 妃奈

政策学部 4年生

KINOSHITA Yusuke
木下 祐介

政策学部長

KAKIMOTO Akihito
柿本 昭人

政策学部 4年生

NOBIRA Takashi
野平 貴

政策学部 3年生

OMAMEUDA Yuka
大豆生田 友香

身につけた知識をベースに 学びをリ・デザインして課題に挑む

— 政策学部を選んだ理由は何ですか？

木下 大好きな日本史を勉強していくうち、身の回りで起きていることが、一つの視点だけでは理解できないということに気づいたんです。現代社会も歴史の延長線上にあって、その課題を解決するには幅広い分野の知識が必要だと考え、政治や経済、行政、法律など多様な学問が用意されている政策学部を志望しました。

大豆生田 高校時代、理系を選択していたのですが、それも何となく数学が得意だから…という理由で、明確に軸となるものがありませんでした。大学ではいろんな経験を通して、自分自身の興味や関心を広げていきたい！学部を選択できる学部ってどこだろうって考えたとき、政策学部がぴったりだと思ったんです。

柿本 政策学部で「広く」学ぶ意味とは何でしょう？皆さんがものを考え、行動するために最低限の知識は用意しますが、現場に出て実際に課題に直面したとき、自分はこれが足りていないと感じることも多いかもしれません。新たな気づきに対して、学生自ら主体的に学びをデザインして、こうすれば実現できるんじゃないか！という感覚を身につけ、ゴールに向かって踏み出せる…。それが他の学部と違うところだと考えています

— ゼミで何を学んでいますか？

有本 経営組織論を中心に勉強しています。学生ベンチャーコンテストなどにも積極的に応募し、私たちのグループではコーヒーチェーン店のカップをシェアしあって、廃棄物を減らすアイデアを考えました。サステナブルだから使ってくれるだろう…という一方通行の目線ではなく、例えば利用者にポイントを還元して他のサービスとの違いを

明確にするなど、ゼミ活動を通してビジネスを立案する楽しさに触れました。

野平 例年実施されているフィールドワークがコロナ禍でできなかったため、学期ごとの研究発表に力を入れました。その中でも印象に残っているのが、沖縄の基地問題に関する発表です。国際関係や政治的課題はリアリズムの思考で考慮されなければなりません、騒音などの被害に悩まされている住民がいるのも事実です。ますます複雑化する課題を解決するために、物事を双方向から立体的にとらえて判断することが大切だと気づきました。

柿本 中世ヨーロッパでは、自分の知識や経験を高めるために、各都市を回っているんな先生のもとで学ぶ遍歴学生がいました。政策学部には学びの木がたくさん立っていますが、もしかしてその木と木の間は離れているかもしれません。目の前の課題を解決したいとき、それを橋渡ししてくれる科目はどこにあって、どんなふうに勉強していかなければならないかを考えること。そうすれば、皆さんの学びはきっと実りあるものになるでしょう。

知識と経験を幅広く磨き 夢を叶える社会実践力を養う

— 大学生活で学んだこと、身につけたことは？

大豆生田 ボランティアサークルで、琵琶湖の清掃活動などに取り組みました。ごみを拾うと清々しい気持ちになりますが、活動を続けるうち、社会が本当に求めているのはボランティアに頼らなくても成り立つ仕組みを作ることだと気づいたんです。目の前の課題に疑問を投げかけ、多様なアプローチで答えを導き出していく…、そんな考え方を養うことができました。

野平 2年生のとき、今までの自分を変えたい！という思いで、「新島塾」のリーダー養成プログラムに参加しました。他学部の学生と一緒にフィールドワークで社会問題を調査したり、政治や外交の世界で活躍するOBから実践的な講義を受けたり、貴重な経験を通して多くの刺激を受け、自分自身をアップグレードできたと思います。

木下 大学では多文化共生や国際協力のあり方を学んでいます。1年生のとき、夏休みを利用してカンボジアに住宅建築のボランティアに行ったのですが、家は決して立派ではありませんが、楽しそうに暮らす子どもたちの笑顔に触

れ、本当の豊かさって何だろうと、当たり前だと思っていた自分の価値観を見直すきっかけにもつながりました。

有本 新町キャンパスの渡り廊下の壁に掲げられた「人一人八大切ナリ」という言葉を眺めると、なぜか心が落ち着くんです。何か問題を解決するとき、自分の正しさを押し立てるのではなく、価値観や考え方の違う人たちをリスペクトし、お互いを通じ合わせて大きな力に変えていく必要があります。この言葉には、そんな思いが込められているのではないかと思います。

— 受験生に一言、どうぞ

野平 進路に迷っている人も多いかもしれませんが、政策学部ではいろんな学びの木を用意しているので、やりたいことが必ず見つかると思います。

有本 自分から積極的に学べば、きっと有意義な4年間を過ごせるはず。ポジティブシンキングの皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

木下 私は科目ごとにライバルを作って、勉強のモチベーションを高めていきました。自分に合った方法で受験勉強を乗り越えてほしいですね。

大豆生田 主体性を持って学びたいことが選択できる学部です。自分の可能性を信じて、ぜひ最初の一步を踏み出してください。

柿本 自分が叶えたい夢や目標って、人任せにはできないはず。こうなりたいと思ったとき、この先どんなハードルがあって、誰を仲間にして、どうやって乗り越えていくのか…、決して一直線でない道を粘り強く探していかなければなりません。4年間の学びを通して、自分は社会の中でこんなふうに活躍していけるんだとファイティングポーズをとれる人になってほしいと思います。

2024年に政策学部が創設されて20周年を迎えます。ぜひ意欲あふれる皆さんとの出会いを楽しみにしています。

※学年は
2022年12月現在

学部長のメッセージはこちら



step-01

First Year Experience

入学してすぐ



政策学部の基礎を学ぶ



入学してすぐに全員が受講する科目が First Year Experience、略してFYEです。FYEは、新入生がスムーズに大学生活へなじめるように企画されたオリエンテーション科目です。政策学部の教員全員がそれぞれのクラスを担当し、1クラス12人前後の少人数で開講します。

この科目では、学習生活を進めるうえで必要となる学内の情報へのアクセスの仕方やレポートの作成にむけた基本的な知識が得られます。図書館、データベースなどの学内資源、ラーニング commons など学

内施設を活用し探求する姿勢をもつよう促します。大学生活における学びの一步を個性あふれる教員によって丁寧に導いていきます。

教員と学生とのあいだのコミュニケーションのみならず、学生同士の議論を深めることも特徴の一つです。与えられた課題や自ら発見した課題、グループで導いた課題に対してグループワークを行い、チームビルディングを体験します。問題を解決するプロセスを通して自らの意見を述べる、そしてさまざまな意見を聞く機会となります。

step-02

アカデミック・スキル

1年秋学期～2年春学期



少人数クラスで技術を習得する



1年生の秋学期から2年生の春学期にかけてほとんどの学生が受講する科目がアカデミック・スキル、略してAS(アカスキ)です。ASはその名前のとおり、大学での学習や研究に必要なさまざまな技術を身につけるための科目で、16名以下の少人数制クラスとして開かれます。

ASの内容は「読解」「分析」「伝達」の3つの分野に分けられています。まず「読解」では専門図書や論文、資料の内容を理解するために必要となる、文献講読に関するさまざまなスキルやレジュメ作成等

の作法を学び、議論の前提知識を得るための読解力を高めます。

次に「分析」では、質問紙調査やインタビュー調査等による多様なデータ収集方法と分析手法の実践を通して、根拠(エビデンス)にもとづいて議論するための具体的な方法を習得します。

最後に「伝達」では、ディベートやグループワーク、プレゼン大会などの体験を通して、議論するために必要となる論理的思考能力や調整能力、コミュニケーション能力を養います。



国内フィールドワーク

岡本ゼミ

岡本ゼミは、国際目標である持続可能な開発目標(SDGs)を実現すべく、毎年、国内と海外でフィールドワークを行っています。2022年はコロナの影響でアフリカのウガンダに渡航はできませんでしたが、7月終わりに京都の美山町でエコツーリズムを体験し、循環型社会の構築と実践の重要性を学びました。ゼミ生は大自然の豊かさを肌で感じ、座学を交えて循環型社会の在り方を学習し、最後には、



エコツーリズムの本質を学ぶ!

エコツーリズムの広報の仕方について、真剣に学んできました。

夏休みは、その学んだ知識を活かして、ウガンダにおけるゼミのカウンターパートである現地の環境NGOとオンラインで共働して、野鳥の生息地として世界的に知られているウガンダのマバンバ湿地のエコツーリズム振興のためのパン

フレットを作成しました。その湿地は、ラムサール条約に指定されていて、NHKでも紹介されたことがあるぐらい知られたエコツーリズムの拠点です。

この国内外の2つの地域の自然環境は全く異なりますが、ゼミ生は、フィールドワークを通してエコツーリズムの本質は変わらないことを学んだようです。



海外フィールドワーク

新見ゼミ

現地の人々とのコミュニケーションを通して学ぶ国際協力

新見ゼミは、開発途上国が抱えるさまざまな問題について、その原因や解決策、国際協力の在り方などについて考察するゼミです。2022年度は、フィリピンでフィールドワークを実施しました。

路上で暮らす子どもたちやごみ処分場地域で暮らす人々を対象に支援活動を行っている特定非営利活動法人ICANの事業地を訪問し、環境問題と貧困問題が複雑に絡み合っている現状について理解を深めました。また、ICANが運営している児童養護施設「子どもの家」を訪問し、当ゼミの学生が子どもたちを対象に子どもの権利に関するワークショップを行ったほか、子どもたちに学びへの意識や思い描く将来像などについて尋ねることもできました。

独立行政法人国際協力機構フィリピン事務所やアジア開発銀行本部も訪問し、両機関の支援内容について説明を受け、貧困問題を撲滅する重要性やその難しさなどについて学びました。加えて、フィリピン大学を訪問し、Toby Monsod教授に農業改革・教育問題・ミンダナオ島における紛争問題などについて解説いた

いたほか、経済学部の学生と交流し、同世代の若者が自国の諸問題についてどのような考えを有しているのかなどについて理解を深めることができました。

今回のフィリピン訪問は、現地の人々に寄り添い、彼ら・彼女らの目線で問題を捉える大切さを学ぶ貴重な機会となりました。



多田ゼミ

TADA seminar



産官学連携活動を中心に 「価値主導型マーケティング」で地域を活性化

ゼミでは、新しい概念「価値主導型マーケティング」に基づく地域活性化を主に考えます。

例えば、「人間が演奏するようなコンピュータ音楽」「ダンスコンテストで勝つための曲セレクト」など、感情科学・感情心理学をベースにした研究のほか、文化遺産マーケティングでは、「エモい」をキーワードにした二条城の感情地図(emotion map)を作ったりするなど、一つひとつのテーマが幅広く刺激に富んでいます！

フィールドワークでの産官学連携活動を中心に、楽しく学んで成長できるゼミです。



3年生 * 宇野 朝香(ウノアスカ)
ショートムービーやポスターの作成など
自由な発想で地域活性化に取り組んでいます

吉田ゼミ

YOSHIDA seminar



多様な国の政治や政策を比較し 考え方の自由度を無限大に広げる

いろんな国の政治や政策を比較する、というのがゼミのテーマの一つです。

例えば、ノルウェーの子育て支援やフランスのフードロス対策など、なぜその国の政策がうまく機能しているのか、どこが優れているのか、あるいは日本に導入するならどんな施策が必要なのか？

世界の国々と自分たちが暮らしている国や地域、環境を比較し、客観的に物事を捉えることで、考え方の自由度は大きく増していくはず。グローバル社会の中で、主体的に考え、行動するスキルを養うことができます。



2年生 * 林 東健(hayashi kenji)
将来の夢は日本と韓国を結ぶ外交官！
小人散ゼミでグローバルな感覚が身につきます

風間ゼミ

KAZAMA seminar



思いもよらない独創的なアイデアで 世の中を変える政策提言や起業を目指す

「政策立案」「学生ベンチャー」などいくつかのプロジェクトに分かれ、学生がチームを組んで展開しています。

政策立案については、国内の政策立案大会への応募を目標とし、毎年のように賞をいただいています。また、学生ベンチャーでは、例えば紙パックを原料にしたアクセサリーを販売するなど、新たなビジネスに取り組みながら商品開発やマーケティングを学びます。

いずれのプロジェクトでも求められるのは発想力です。ゼミ活動を通じてアイデアを生み出す力と行動力を育てています。



3年生 * 新保 安実(ニノベアスヱ)
やる気に応えてくれる先生と仲間たち！
政策立案の楽しさに触れるとクセになります

太田ゼミ

OTA seminar



フィールドワークで広がる好奇心！ 組織の中で個人を輝かせる方法を考える

組織と個人の関係性に焦点を当てています。

例えば、最近では町内会や学校行事に参加しないという人が増えていますが、その理由は何か、何が問題となっているのか？学生自身がテーマを見つけ、仮説を立て、フィールドに出かけてアンケートやヒヤリングを行って新たな提案へとつなげていきます。

本を読むことだけが学びではありません。現場を見て、声を聞いて、そして自分で考える習慣を身につけることで、学問の好奇心は広がっていくはず。一人ひとりのやる気と意欲を大切にしています。



3年生 * 長谷川 史奈子(ハセガワリナコ)
イベント企画やビジコンへの応募など
一人ひとりの学びのフィールドは無限大です

川浦 ゼミ

KAWAURA seminar

データを収集・分析して証拠に基づいた政策を立案



例えば、野球でDH(指名打者)制を採用した試合は、ピッチャーがデッドボールを与える率が高いというデータが出ています。その理由は何か?自分自身で仮説を立て、必要な情報を集めて科学的に分析・検証し、新たな発見や気づきにつなげていきます。学生が興

味を持っていることならテーマは自由。今、証拠に基づいた政策立案(EBPM)への取組が求められていますが、データ分析のスキルや統計の基礎知識を武器に、社会において合理的で説得力のある提案ができる人材育成を目指します。



2年生
亀岡 太陽
カメオカ タイヨウ



根岸 ゼミ

NEGISHI seminar

マネーを通して世界に関心を広げグローバルイシューに挑む



円安や円高はなぜ起こるのでしょうか?株価の変動や金融危機の原因は何でしょうか?ゼミでは、教育や環境、ジェンダーなど世界銀行が実際に取り組んでいるさまざまなプロジェクトについて分析・評価を行い、問題発見能力と政策提言のスキルを磨きます。また、世

界銀行東京事務所を訪問し、第一線で活躍するリーダーに話を聞くなど、現場でしか経験できない肌感覚を大切にしています。マネーを通して世界はつながっています。ほんの少し海外へ目を向けるだけで、学問の好奇心は大きく広がります。



3年生
菅野 万里子
カンノ マリコ



田中秀 ゼミ

TANAKA seminar

「働くこと」を科学する! 学術的思考で雇用政策を考える



三井物産のグループ会社と連携し、新入社員の相談力(援助要請行動)の向上や、組織に適応していくプロセス(組織社会化)の標準化などを目指す教育プログラムを策定・提案しています。何となくのアイデアではなく、学術的な知見を取り入れることが重要

で、「働くこと」を科学することで、社会に出た後の長い職業人生において、常に論理的思考を持って仕事に向き合っていきたいと考えています。そのほか、雇用政策に関わる実務家などのレクチャーの機会も積極的に設けています。



3年生
奥田 花梨
オクダ ハナリ



真山 ゼミ

MAYAMA seminar

フィールドを舞台に実践的なアイデアで行政との関わりを学ぶ



机上で行政学を学ぶだけでなく、いろんな地域で開催される政策立案大会などに参加しながら、政策形成・実施における行政と社会との関わりを学びます。例えば登別市では、牛のゲップに含まれているメタンガスが地球温暖化に影響を及ぼしていることに

注目し、学生ならではのユニークな目線で持続可能な畜産の在り方について提言を行いました。フィールドに向いて、多様なアプローチで課題を解決する知識とノウハウ、センスを身につけることができる、刺激あふれる実践的なゼミです。



4年生
平川 晴臣
ヒラカワ ハルキ



海外留学

本学では、各種留学プログラムを充実させて、グローバル人材の育成に力を注いでいます。下記の体験記は、2022年度参加学生によるものです。



留学体験記

柴田 健太 | 3年生

SHIBATA Kenta

留学先大学 **ブリティッシュコロンビア大学**

留学期間 **2022年9月～2022年12月**

きっかけ

自分の所属しているサークルに留学を経験している先輩や同級生が多く、自分も一度くらいは日本の外に出ることで視野が広がるだろうと感じていたこと、気軽に留学するには大学生の間がベストだと考えました。



留学で学んだこと

情報を批判的に受け取り、自分なりに解釈した上でそれに対して自分の意見を持つことが大切だと思いました。これは、学業だけでなく、会話や日常的に情報を得るときにも役立つと思うので、誤った情報に踊らされずに、より良い生活を送るためにも必須のスキルだと思いました。

また、ヨーロッパからの留学生はギャップイヤーという制度を使って、学問以外の自分がやりたいことをしてから大学に入学したという学生が多く、当たり前のことですが、生きていく上での選択肢なんて無限にあるんだと感じました。

これからの目標

まだ将来の目標は明確に決まっていますが、今後も英語力の維持向上を行うこと、サークル活動を通して、日本の良さを海外の方々に発信していきたいと思っています。そして、卒業までの時間があるうちに日本への理解をより深めたいと考えています。



INTERVIEW 先輩からのメッセージ

政策学部の学びを生かし社会の多方面で幅広く活躍するOB・OGのメッセージ

Celtic FC

2008年卒業

井堂 彰人さん 《IDO Akihito》

開 発や貧困問題に関心があったことから、3年生のとき交換プログラム制度を利用してメキシコに1年間留学しました。語学力を磨いたことがきっかけとなり、現在はセルティック唯一の日本人社員としてトップチームのサポート、日本エリアのビジネス開発などに関わっていますが、世界に飛び出して感じることは目の前の課題に対していかに有効なリアクションがとれるかということ。語学はドアを開けるためのツールに過ぎません。4年間で身につけた学問横断的なものの考え方、課題解決に導く対応力は今に活かされています。

政策を駆使して
若者よ、世界に飛び出そう！



写真提供：Celtic FC

株式会社リクルート

2015年卒業

立山 咲苗さん 《TATEYAMA Sanae》

ア カデミック・スキルでリーダーとして、高齢者や妊婦の方などが優先的に利用できる「おもいやり駐車場」の認知度を高めるための活動を、京都府と連携して行いました。そこではプロジェクトを円滑に進められるよう、チーム環境を整えることや情熱は伝染していくことなどを経験させていただきました。現在、2児の母親として仕事と家庭を両立しています。どの業界も変革期を迎えています。専門家ばかりでは組織は成り立ちません。答えのない課題に対して、政策学部で学んだ知識や経験は社会人となった今、とても有意義な時間だったと感じています。

少人数クラスの授業で
人も惹きつける力を身につける



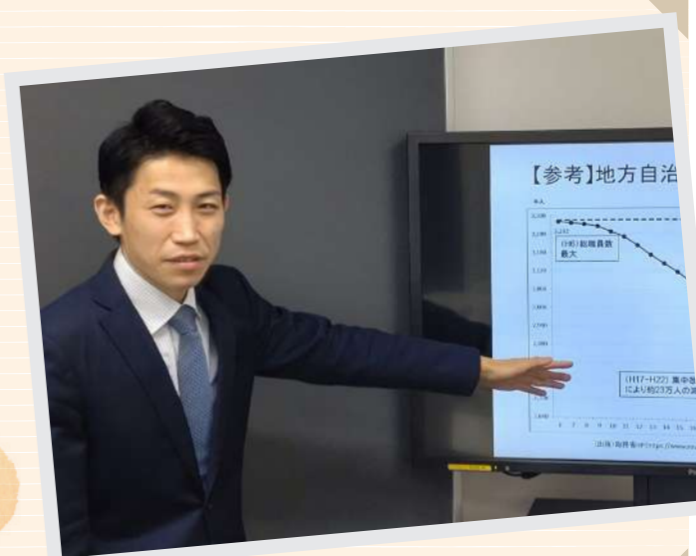
大阪国際大学 教員

2009年卒業

湯浅 孝康さん 《YUASA Takayasu》

4 年生のとき、大学広報誌のOB訪問の企画で外務省を訪ねて儀典長にインタビューしたのですが、あまりにセキュリティが厳重でずっと緊張しっぱなしだったのを覚えています。少しでも興味のあることは、早いうちに経験しておくことが大切です。政策学部ではいろんな人に出会ってさまざまな価値観に触れ、多角的なものの見方を身につけることができました。現在は大学教員として教育・研究する立場になりました。学生の「なぜ？」という疑問を大切にしながら、政策を学ぶ面白さ、魅力を伝えたいと考えています。

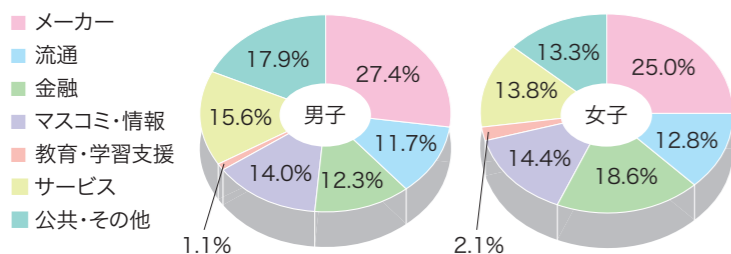
様々な価値観に触れ
多角的なものの見方を養う



就職データ

活躍のチャンスはあらゆる分野に広がっています。

就職者の業種別比率(2022年度)



※率(%)は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

主な就職先(2022年度)

国家公務員(一般職)	積水ハウス株式会社
三井住友信託銀行株式会社	富士通株式会社
東京海上日動火災保険株式会社	株式会社サイバーエージェント
京都市	日本電気株式会社
パナソニック株式会社	株式会社日本総合研究所
株式会社電通デジタル	三井住友カード株式会社
国税専門官	株式会社インダ
損害保険ジャパン株式会社	日本年金機構



教授
足立 光生
ADACHI Mitsuo
持続可能な社会を築く
投資、市場、企業



教授
Ofer FELDMAN
Ofer FELDMAN
政治心理学



教授
藤本 哲史
FUJIMOTO Tetsushi
ワーク・ファミリー・バランス



教授
畑本 裕介
HATAMOTO Yusuke
現代生活の在り方、
社会福祉(行政)の政策分析



助教
伊川 萌黄
IGAWA Moegi
環境/エネルギー/
貧困問題に関する実証研究



教授
武藏 勝宏
MUSASHI Katsuhiko
議会の立法過程・制度、
直接民主制の実証分析



教授
中島 恵理
NAKAJIMA Erina
ローカルSDGsと
ソーシャルイノベーション



准教授
中尾 祐人
NAKAO Yuto
法学、行政法、行政調査



教授
中田 喜文
NAKATA Yoshitumi
戦略的資源戦略、
人的資源政策



准教授
根岸 祥子
NEGISHI Shoko
先進国・開発途上国における
国際資本の役割



教授
井口 貢
IGUCHI Mitsugu
文化・観光政策の要諦としての
人文知の所在



教授
入江 容子
IRIE Yoko
地方自治体の組織的問題
-構造・管理・政策-



教授
柿本 昭人
KAKIMOTO Akihito
近代社会の思考システムを
歴史的に探求する



教授
川口 章
KAWAGUCHI Akira
ワーク・ライフ・バランスと
ジェンダー平等



教授
川井 圭司
KAWAI Keiji
スポーツの法と政策



教授
新見 陽子
NIIMI Yoko
国際開発・貧困・格差・ジェンダー



教授
野田 遊
NODA Yu
地方自治研究



教授
野間 敏克
NOMA Toshikatsu
地域経済にとって
望ましい地域金融の研究



教授
岡本 由美子
OKAMOTO Yumiko
フェアトレードの
社会的インパクトと今後



教授
大島 佳代子
OSHIMA Kayoko
学校における
子どもの人権とその保障



教授
川上 敏和
KAWAKAMI Toshikazu
ゲーム理論の応用、
人や主体間の協力行動



教授
川浦 昭彦
KAWAURA Akihiko
公共選択



教授
風間 規男
KAZAMA Norio
政策をめぐるネットワークの
役割についての研究



助教
小阪 真也
KOSAKA Shinya
移行期の正義、平和構築、
国際人権・人道法



准教授
小谷 真理
KOTANI Mari
環境基準の正統性、
行政裁量の統制



教授
太田 肇
OTA Hajime
個人を生かす組織の研究



教授
大和田 順子
OWADA Junko
ローカルSDGs、
ソーシャルイノベーション



教授
多田 実
TADA Minoru
感情科学に基づく
マーケティングリサーチ



助手
滝本 香菜子
TAKIMOTO kanako
アジア諸国における幸福の研究



准教授
田中 秀樹
TANAKA Hideaki
現代社会における
人材・組織マネジメント



教授
久保 真人
KUBO Makoto
働きやすい組織と
個人のウェルビーイング



助教
増淵 あさ子
MASUBUCHI Asako
沖縄占領史、医療史、
マイノリティ社会学



教授
真山 達志
MAYAMA Tatsushi
行政学、政策形成論、政策実施論



助教
三上 真嗣
MIKAMI Masatsugu
行政責任論、
政策評価論(ODA評価)



教授
三好 博昭
MIYOSHI Hiroaki
技術を社会に活かす
公共政策の研究



教授
田中 宏樹
TANAKA Hiroki
少子高齢社会の地域経営



准教授
富樫 耕介
TOGASHI Kosuke
国際政治学(紛争研究)、
旧ソ連地域研究



教授
月村 太郎
TSUKIMURA Taro
バルカン地域研究、
地域紛争比較研究



教授
山谷 清志
YAMAYA Kiyoshi
政策評価と
政府のアカウントビリティ



教授
吉田 徹
YOSHIDA Toru
政治学
(比較政治学、ヨーロッパ政治)